

議事録

理事長	審判部長	事務局長
		

会議名	第1回審判長会議							
日程	2023年6月11日(日) 13:00~16:00							
会場	県連事務所						記録者	土橋
出席者	手島審判部長	○	西川審判副部長	○	岡本審判長	○	吉田副審判長	○
	増井副審判長	○	福井技術指導員	×	梶岡技術指導員	○		
	(生駒市) 中谷	×	(郡山) 桑原	○	(天理) 國保	×	(檀原) 前田	○
	(桜井) 芹井	○	(磯城) 長澤	○	(宇陀) 南	○	(香芝) 黒松	○
	(生駒郡) 延原	○	(北葛) 寺井	○	(葛城) 琉	○	(吉野) 松谷	○
	(御所) 人知	○	(高市) 小野木	○	土橋事務局	○	出席者 19名	

☆ 審判部長挨拶

1. 昇級試験について

- 例年、学科試験・実技試験を年に2回実施、実技試験についてはA級初日の1試合後、チーム協力のもと年2回行っていた。今年度は、A級チームの減少により試合日が1日となったため、その日程に合わせるのが難しい現状となっている。
- 今後の検討課題として実技試験を年に1回にするか、審判技術講習会の後にする、審判派遣時に実践で評価するなどの方法を検討する。今年度の筆記試験2回目は予定通り10月から11月。実技試験は秋に1回行う予定。
- 学科試験は年に2回、有効期限は2年間とする。
- 規則も改訂されることから、講習会時の確認テストをしてもいいのではないか？アップデートは必要と考える。

2. 近畿卒業生1級について

- 規則や規定はないが、通常近畿審判技術講習会を卒業すれば、指導員立場になるため、奈良県の等級は1級に昇格するのが慣例となっている。
- 近畿講習会受講について、基本的には1級保有者を推薦していたが、天皇賜杯の事もあり、1級以外の審判員を推薦し受講生となっている。
- 今後も1級保有者以外の者が近畿講習会を受講することが予測出来るため、また卒業と等級は別物という意見が多く、今後の検討課題とする。
- 今年度は今までの慣例を適用し、今年度近畿卒業生の2名(長澤氏、杉田氏)は、1級に昇格することとする。
- 次年度以降、講習生となりうる者を指導し、推薦していただきたい。

3. 規則の解釈について

(1) 今年度のスポ少 県大会

事例 走者2・3塁で前進守備時、2塁走者が遊撃手後方付近までリードを取り、投手が投手板に触れた状態で前進守備の遊撃手にけん制し、少し走者を追いかけて2塁走者にタッグした。その時の判定としては、バークを宣告した。

規則 野球規則 P101 6.02a (4)

「投手板に触れている投手が、走者のいない塁へ送球したり、または送球するまねをした場合。ただし、プレイの必要があればさしつかえない。」

競技者必携 P76 (10)

「投手の軸足が、投手板上か投手板をはずしたかに関係なく、本来の守備位置にいる野手に送球した場合に、その送球がけん制とみられない場合は、ポークが宣告される。(規則 6.02a (4) (8))」

判断 このプレイに対しては、ポークではなく必要なプレイと判断される。

けん制であるかどうかは審判員の判断となる。けん制とみなされない送球やタッグ出来ない状態と判断されればポークとなる。

このようなプレイは、2塁だけでなく、1塁や3塁でも起こり得るプレイであるので、気を付けること。

(2) 本塁でのプレイ ※動画視聴

規則 競技者必携 P94 アマチュア内規⑩、P96 アマチュア内規3. 後半 (規則 6.01h、6.01i (2))

判断 捕手がベースパス上でボールを保持しており、明らかにアウトな状態であったと判断できるためこの走者のアウトは判定通りであるが、捕手に対して危険防止ルールの通り、注意を与えなければならない。

球審は捕手がベースパス上に位置していることを確認した場合、「あし、あし」と発しベースパス上から捕手の足が出るように促す必要がある。

4. JSBB マークについて

事例 高円宮賜杯県大会の用具チェックの際、ヘルメットのJSBBが消えかけているチームに対し、審判員から塗装するよう指示があった。

判断 奈良県としては、JSBB マークが消えるほどの状態を発見すれば、長年使用されており経年劣化状態であると判断し、チームには購入を促すこととする。

※SG マークの耐用期間は3年間となっている。

5. 審判手当について

現状 今までは当日払いであったが、雨天順延等により審判員の変更が多く当日支払いが出来ていない。

前田事務局長より、雨天順延等で変更も多く会計処理の負担が今年は増えている。事務局として、将来的に全員振込とさせていただきたいが、現状銀行振込か、月締めで支部長渡しでお願いしたいと考えている。審判員の方々の意見を聞きたいため、議題とさせていただいた。

意見 ベストは当日現金支払い。無理な場合は現金で月払いとし支部長預けでも構わない、振込は反対の声が多かった。

検討 前田事務局長) 事務局で相談、検討する。

→後日事務局にて決定事項

7月から以前同様、当日の現金支払に戻す。

ただし、直前に派遣審判員の変更があれば後日の支払いになる。

6. 天皇賜杯の人員について

- ・ 3年後の9月に天皇賜杯を開催する予定。

- ・ 大会1日目、2日目は8会場で3試合、のべ96名必要となるため、近畿派遣、高野連、中体連等、願うする方向で動いている。
- ・ 天皇賜杯に出務できそうな人を各審判長から報告、不明な支部もあるが70名程度となった。
- ・ 審判員の人材確保や育成が課題である。

7. その他

(1) ユニフォームの名前

事例 高松宮賜杯2部において、ユニフォームの背中の文字が全軟連盟規定細則に則っていなかった。

規則 全軟連盟規定細則 P44(7)

「ユニフォームの背中に選手名を入れる場合は、全員が背番号の上にローマ字で姓のみとする。ただし、同姓の者がいる場合、名の頭文字をいれてもよい。」

参考 チーム等からユニフォーム製作の相談等あれば、左袖に県名を入れる事など細則を説明すること。また支部やブロック大会等でも違反がないか確認すること。

(2) 4年生大会

① ルール再確認 (ホームスチール)

4年生大会ではホームスチールを禁止している。理由として、打者が走者の本塁突入に気付かず、バットを振って走者と接触することを避けるためである。

奈良県の取り決め事項として、「『ホームスチール』とは、投手の投球動作前に走者がスタートを切ったものとする」

ホームスチールが行われセーフになれば、そのプレイを無効にし走者を3塁に戻す。その際の投球はカウントする。

② 近畿大会について

日程は9/16～18、3日間、初日6会場で開催する。昨年同様、各支部から審判派遣をお願いするので、支部割り振りが出来上がり次第連絡する。

議事録作成 土橋